

自分と家族との関わりへの気づきを行動につなげる授業設計

神奈川県川崎市立西有馬小学校 教諭 福山 里加

小学校1年 生活科・道徳 「ざわざわ森のがんこちゃん」

【活用回・番組紹介】「ごめんね、おかあさん」

幼稚園・保育所の園児から小学校低学年の児童まで、楽しんで道徳を学べる番組。【基本的な生活習慣】や【集団生活のルール】を、人形劇で楽しく子どもたちに伝えている。素直で明るいがんこちゃんと仲間たちが巻き起こす珍騒動や葛藤から、道徳的テーマを感じ取ることができる。

【単元デザイン】かそくにここに大きくせん

1 家庭生活の仕事を手伝う「いっしょに挑戦」(1/10)
冬休みに、おうちの人と一緒に家庭の仕事を体験する。

2 友達に発表して、振り返りをする。(2~3/10)
お手伝いしてきたこと(絵日記)を、クラスの前で発表し、お手伝いに対する感想を共有する。

3 番組を視聴する(4/10)
「家族への感謝の気持ちをもった場面」を振り返ることで、家族の支えに気づき、家族のために自分のできることを行おうとする意欲を高める。

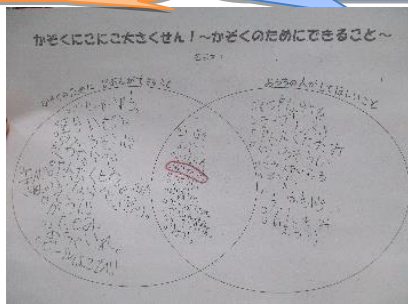
いつもさむい中キッチンであらいものをしてくれて、ありがとうって思う。

おうちの人も自分のことを考えてくれているんだ!

4 お手伝い「一人で挑戦」を決める。(5~6/10)

いつもさむい中お風呂も洗ってくれているから、お風呂を自分が洗おう

自分でようぶくたたまがでできるようになった。もっともっとうまくだまたい



ベン図でお手伝いを決定 友達にコツをインタビュー

5 お手伝い決行…振り返りと発表(7~10/10)

二回目のお手伝いの様子を発表。おうちの人からのコメントや友達からの感想で、取り組んだことへのよさを実感し、今後の生活に生かそうという気持ちを育てた。

【本学級の学習スタイルと実態と関連したねらい】

自分のことを自分ですることも、家族によって支えられていることを実感することは1年生にとって難しいが面ある。「家族をにこにこさせよう」という課題のもと、授業と並行して番組を活用したり、お手伝いをテーマにした絵本を読み聞かせしたりすることで、家族によって支えられていることに気づき、その思いを行動へとつなげていけるような授業設計を心がけた。

【今回の実践における番組効果】

- 情緒に訴え、望ましい心情や態度を育てる。
- 日常的な事象に対して、新たな見方や感覚を与えて、課題を発見する。
- 児童の思考を広げ、学習への意欲を向上させる。

【深い学びに関する教師の工夫】

○ 気づきを促す番組活用

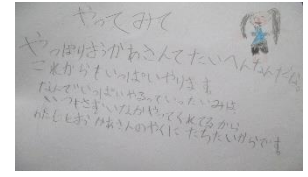
がんこちゃんの気持ちに寄り添って考えたことで、家族を大切にしたいと思った出来事について振り返ることができた。家族の大切さや、家族によって支えられていることに気付くことにつながった。家族のために自分のできることを行おうとする(手伝おうとする)態度を高めることができた。



○ 保護者にインタビュー&思考ツールの活用

「おうちの人がしてほしいと思っていること」をインタビューし、自分で考えた「家族のためにできること」と共通しているお手伝いを、思考ツールで確認した。家族のためにできるお手伝いを可視化したことで、その中から1つ、具体的に手伝いを行うものを決めることができた。

○ 体験と振り返りを繰り返しながら気づきの質を高める
本単元(生活科)では、手伝う(体験する)活動と振り返りをする活動を繰り返した。振り返りでは、家庭からのコメントやコツを友達同士で教えあう場を設定した。家庭での手伝いを工夫して続けていきたいという気持ちが育った。



【成果と課題】

本単元では、家族のことを考えて自分ができることを進んで行うことがねらいである。家族のことを考える過程で、子どもたちが自分と家族の関わりを具体的にイメージしながら考えを深めていけるように、「ざわざわ森のがんこちゃん」(家庭との関わりへの気づきをテーマにしたもの)を活用した。授業を終えた子どもの感想には、「いつも寒い中やってくれているから、私もお母さん役にたちたい。」「寒い中でも、がんばってまたゴミ捨てをやってあげたいです。おうちのために。」という声が聞かれた。多くの子どもが家族への思いを行動に移したことを、振り返ることができていた。生活科番組は現在、存在しないが、生活科のねらいを達成するのに有効な番組活用について今後も探していきたい。